

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

栃木県 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実 施 内 容

■期 日 : 2020年10月12日(月)

■ク ラ ス : 2年A組(35名)

■オリンピアン : 高尾 千穂 先生(スキー/フリースタイル(スロープスタイル))【出場オリンピック/ソチ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、授業の趣旨を説明し、3つのこと「チームで協力すること」、「ベストを尽くすこと」、「目的意識を持つこと」を意識してほしいと伝え、準備運動に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・ボール送りリレーを実施。



4. まとめ



・冒頭に伝えた3つのことを意識して取り組むことができたかを確認。常に意識しながら物事に取り組むことの大切さを伝え、授業終了



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・授業の目的を話した後、スキースロープスタイルはソチ大会から採用されたこと等、映像やスライドを見せながらルールや特徴、用具について説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：日常生活の中で感じるオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)

エクセレンス：「最後まで諦めない」「前回より良い結果を目指して努力する」等

フレンドシップ：「部活動で競い合える仲間がいること」「クラスメイトと高め合うこと」等

リスペクト：「今あることを当たり前と思わない」「感謝の気持ちを忘れない」等

4. まとめ



・オリンピックバリューが身近な価値であることがわかったのではないかと。オリンピックは成績を競う場と捉えられがちだが、目標に向かう過程でどのような工夫をしたか、努力する過程でどのような経験をしたかが大切である。オリンピックバリューを感じながら部活道や勉強に励むことで、目標への道筋は変わってくる。今日の素晴らしい意見や考えを忘れずに生活してほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2020年10月12日(月)

■ク ラ ス : 2年B組(35名)、2年C組(35名)

■オリンピアン : 長岡 千里 先生(ボブスレー)【出場オリンピック/トリノ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、ホワイトボードに掲示した3つのオリンピックバリューについて、オリンピックの基本的な精神であると紹介し、スポーツをする時の準備の大切さを伝え、準備運動に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・ボール送りリレーを実施。



4. まとめ



・作戦タイムで色々な意見を出し合った。そして、自分の出番が終わっても、チームがまだ戦っている状況を「頑張れ」と応援していたことが、冒頭に触れたオリンピックバリューの「チームワーク」、「相手を理解する」につながってくる。運動の時間で行ったことを活かして、座学の授業に取り組んでほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・自身の競技経験を踏まえて、オリンピックについて話したいと授業の目的を確認。ボブスレー競技について、ペアの呼吸や用具の大切等について説明した後、オリンピックシンボルについて、5つの輪は五大大陸を表しており、使用されている6色でほぼ全ての国旗を描けると話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間で意識したこと。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)

エクセレンス：「お互いの息を合わせてミス減らした」「ミスをしたところは次に絶対改善するようにした」等

フレンドシップ：「全力で友達のことを応援した」等

リスペクト：「ペアと声を掛け合う」「試合が終わったら相手を称える」等

4. まとめ



・オリンピックはメダルや成績が全てではない。スポーツを通じて人や文化の交流を促す場を作るためにオリンピック開催を呼び掛けた。上位を目指すことは当然だが、そのためどのような努力や経験をしたかといったプロセスが大切である。運動の時間に作戦会議をしたが、どのチームが優勝したということよりその話し合いこそが重要だった。心の中に興味の柱を沢山立てて、様々なことに挑戦して欲しい。人生はいつ何が起きるかわからない。オリンピック教室で学んだことを、友達や家族にも是非紹介してほしいと伝え、授業終了。

■ 記念品贈呈
2年A組



2年C組



2年B組



■ 修了証贈呈

